



Title	William Faulknerの文体と手法 : Spotted Horsesを中心として
Author(s)	上山, 政義
Citation	大阪外大英米研究. 1964, 4, p. 61-76
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/98953">https://hdl.handle.net/11094/98953</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# William Faulkner の文体と手法

——*Spotted Horses* を中心として ——

上 山 政 義

## I 序

本稿は William Faulkner (1897—1962) の文体と手法について、*Spotted Horses* を中心として論述するのがその主眼目であるが、本論に入るに先立ち *Spotted Horses* の内容などについて少し触れておきたい。

さて、*Spotted Horses* には二つの異った版があり、その最初のものは1931年に *Scribner* 誌上に発表された短篇で、次のものはその後10年近く経て1940年に出版された *The Hamlet* の一部 *The Peasants* の前半をなすものである。これら二つの版を比較して、*The Portable Faulkner* の編集者である Malcolm Cowley は Editor's Note の中で次のように述べている。

The version of *Spotted Horses* used in *the Hamlet* and reprinted here, is nearly three times as long as the magazine version printed ten years earlier in *Scribner's*, as well as being nearly three times as good. I don't think it would be too much to call it the funniest American story since Mark Twain.<sup>(1)</sup>

ところで、Faulkner の文体について、速川浩氏は、「Faulknarian style」という語があまりも平易に使われて、何か一定のゆるぎのない文体が彼の小説全体に確立しているような錯覚にとらわれる。しかし事實は彼は習作時代から自己に適する文体を暗中模索し続け、一作ごとに違った文体を実験し、いや一作中でも場合に応じ文体を変えている。その点でも彼は偉大な stylist であっ

---

(1) *The Portable Faulkner* The Viking Press p. 366 l. 30

た。』<sup>(2)</sup>と書いておられる。このように慎重に自己の文体の改善に努力を傾倒した Faulkner が、就中 *Spotted Horses* においては、入念な推敲を重ねて、最初に発表したものを10年近くの才月を経た後に、殆んど3倍の長さにすると同時に、文体の点でも物語の展開の点でも遙かに秀れたものに改良したのである。この一点だけを見ても *Spotted Horses* が研究の対象としてその存在理由を充分に持っているものと言えるであろう。なお、第三者の批評のほかに、Faulkner 自身がこの作品を高く評価していたことは、彼が1955年夏に長野市で開かれたアメリカ文学のゼミナールに講師として招かれて来日したときに、名作として定評のある *The Bear* と共にこの *Spotted Horses* を教材として選んだことを見ても明らかである。即ち、この作品は彼が最も確固とした自信を持っていたものと断定しても差支えないと思われる。また、前に引用した Cowley の批評の中で特に Mark Twain という名が出ているのは、Twain の作品の中でとりわけ洛陽の紙価を高めてきたものに含まれるものとして *The Adventures of Tom Sawyer* および *The Adventures of Huckleberry Finn* などが挙げられるわけであるが、それらの作品の主人公である Tom Sawyer と Huckleberry Finn の惹起する騒動が、*Spotted Horses* に登場する奔馬が暴れて巻き起す騒動と、こっけい味において一脈相通ずるところがあることに由来するのであろう。

次に、*Spotted Horses* は全篇を通じて暴れ馬についての話を中心となっているが、この暴れ馬が作品においてどのような役割を演じていると見るべきであろうか。Faulkner の作品においては、*Spotted Horses* に限らず悍馬が屢々登場するのであるが、このことに関連して、速川浩氏は次のように所論を展開しておられる。この数多い暴れ馬の場面は、フォークナーの作品を理解するのに二様の興味を与える。一つはこの奔馬が作全体のアイデアと、どのような関係があるかという象徴やテーマの上の興味である。今一つは文体の問題で、ただでさえ周囲の物一切を巻き込んでギャロップするとき彼の激しい文体が、

---

(2) 英語青年 1962年10月号 p. 547

この奔馬シーンになると待っていたとばかり急激な強く激しいリズムを刻み、レトリカルな、ほとんど詩的の調子にまで高まる。いわゆるフォークナー流文体が最も顕著に現われるのはこの場面なのであると。<sup>(3)</sup>

先づ第一に、形式面である文体の面においては、奔馬の持つ激しく荒っぽい躍動、横溢するばかりのエネルギーといった奔放不羈な性格が雄渾にして迫力に富んだ文体の構成に大きな貢献をしていることが考えられる。然し、それが果した更に大きな役割は内容の面であって、思想的な点に注目をするべきではないであろうか。Faulkner は言うまでもなく南部出身の作家であるが、この事実が彼の作品において悍馬が数多く登場することと関係があると思われる。合衆国における南部と北部の問題については、高村勝治氏は次の如く述べておられる。「南部人に言わせると北部は産業主義に毒されてしまっているが、南部は農本主義の美点を 20 世紀の今日まで維持している。北部はすっかりヨーロッパ化してしまい個性を失ったのだが、南部はアメリカ固有のよさを持っている。南部人は南部を北部とこのような対立的なものと考え、そう信じている。」<sup>(4)</sup>「Faulkner によれば、南部社会はその当初からのろわれていた。まず白人たちはインディアンから土地をだまして奪い取り、やがて、非人間的な奴隷制度を基盤にして、大農主義の封建的な貴族社会をつくりあげる。だが、南北戦争の結果、この悪徳にみちた奴隷制度は破壊され、奴隷は開放され南部の農本経済は根本から覆えり、こうして南部社会の崩壊がはじまったのだ。」<sup>(5)</sup>ところで、Faulkner はこのような南部の悲劇的様相に深い憂愁の念を抱き、何とかして南部が北部に劣らない社会に向上進歩することを期待したことは容易に想像されるところである。そこで、Faulkner が奔馬にどのような image を持たせ、如何なる夢を托したかということを考察するに当たって、以上に記した南部の特色が何らかの関係を持つかどうかということは一つの課題となって然るべきであろう。就中、*Spotted Horses* においては全篇が暴れ馬を中心とした

---

(3) フォークナー研究 速川浩著 p.61 研究社版

(4) (5) (6) 英語青年 1962年10月号 pp. 546~7

物語であるだけに特にその感が深いわけである。さて、もし想像を逞しうすることが許されるならば、ばくろうの手から逃れようとして縦横無尽に暴れ廻る奔馬の群は、南北戦争の敗北以来北部人に虐げられてきた南部人が、多年に亘って体内深く秘め蓄えてきたエネルギーの発露された姿と見ることも、あながち途方もない推測とは言えないのではなかろうか。即ち、いつまでも北部人に負けていてはならないという南部人の心意気的一端が、悍馬の奔走となって現われたのではないであろうか。とりわけ、Faulkner は南部が現代の退廃の様相を露呈した chaos の状態から脱出する唯一の方法が、人間の名誉と誇り高い精神を回復することであると考えていた<sup>(6)</sup> ことから判断すれば、先づ南部人が物心両面において、北部人の羈絆から脱し、北部人と対等の基盤の上に立って行動することが必要なわけである。*Spotted Horses* の中で、競売の後に馬の所有者となった人達の許から逃れて自由奔放に走り廻っている暴れ馬は、北部人の抑圧から離れて精神的に自立自尊の気構えを持とうとしている心ある南部人の意気込みを代弁するものとして眺めることも可能なのではあるまいか。何故ならば、単に作品の表面にだけ表わされた物語の展開だけを追究するのであれば、この作品の plot は余りにも単純に過ぎ、その文学作品としての価値を特に高く推賞する根拠を見出すことが必ずしも容易ではないからである。ただし、このような見解は単なる臆測の域を一步も出るものではないことを断っておきたい。というのは、Faulkner がこの作品において、それがただ極めて funny な物語であればよいというねらいだけを念頭において、筆を進めたのかもしれないからである。

## II 本 論

*Spotted Horses* に表わされた Faulkner の文体と手法について、その特徴と見られるものを箇条書に列挙し、具体例を示しつつ所論を展開して行くことにする。

### 1. like ～ の形をとった比喩が頻出すること。

比較的教養の低い人達の会話の常として、用いられる比喩は、metaphor よ

りも simile が多いことは当然予想されるが、ここでは like~の形をとった simile が頻出する。

(a) like の次に動物を用いたもの

like dizzy fish  
like hysterical fish  
like phantom fish  
like a mad squirrel  
like the head of an owl  
like a pointing bird-dog  
like a scared hen-hawk  
like a hog

(b) like の次に人間を用いたもの

like a boxer  
like the separate and unstreaming hair of a drowned woman sleeping  
upon the uttermost floor of the windless and tideless sea.

(c) like の次に無生物を用いたもの

like a tail of a kite  
like a downrush of flames  
like flint  
like a rag attached to the horse's head  
like a snowball  
like a rag doll  
like a pinwheel  
like remote thunder  
like exploding snow

上の(a)(b)(c)の三項目の中で、動物愛好者らしく Faulkner の手法は、like の次に動物を用いた場合が、人間や無生物を用いたときのそれよりも秀れているようである。次に、like a hog を含む文を次に掲げてみよう。

And the mules gone with it and the wagon wrecked and you laying  
there on the bridge with your face full of kindling-wood and bleeding

like a hog and dead for all we knew.<sup>(7)</sup>

なお、like の次に用いた名詞は、fish を除いては同一の語が重複して出てくることはない。臨機応変に随所で適当なものを選んで用いていることに注目する必要がある。

2, 特に vivid な描写が見られること。

“...And if you won't take his word, there were forty men standing at that gate all day long doing nothing, that heard that murdering card-playing whiskey-drinking anti-christ—<sup>(8)</sup>”

(一の部分には Texas man が省略されている。)

上の文で that 以下は「あの極悪非道の、ばくち打ちの、のんだくれの、罰当りのテキサス野郎」ぐらいの意味であるが、ぼんぼんと飛び出す罵倒の言葉は悪態をついている人の有様を眼前にほうふつさせるものがある。この文を読むとき夏目漱石の「坊っちゃん」の中で主人公が赤シャツのことを「ハイカラ野郎の、ペテン師のイカサマ師の猫被りの、香具師のモモンガーの、岡っ引きのわんわん鳴けば犬も同然な奴」<sup>(9)</sup>と表現して江戸っ子弁のたんかを切っている箇所を自ら思い浮べるのである。

次にもう一つ例を挙げてみよう。

“and legs you whoa I'll tear your face right look him over quick boys worth fifteen dollars of let me get a holt of who'll make me a bid whoa you blare-eyed jack rabbit, whoa!” They were moving now—a kaleidoscope of inextricable and incredible violence on the periphery of which the metal clasps of the Texan's suspenders sun-glinted in ceaseless orbit, with terrific slowness across the lot.<sup>(10)</sup>

この一節の前半はテキサス人のばくろうが奔馬に振りまわされながら、せり売りを続行している時に発した罵声をそのまま表現したもので、引用符の中は

---

(7) *The Portable Faulkner* p. 438 l. 35

(8) *ibid.* p. 436 l. 20

(9) 坊っちゃん 夏目漱石著 p.105 新潮社版

(10) *The Portable Faulkner* p. 388 l. 15

叫び声や言葉の断片を、故意に句読点を付けずに書き連ねている。区切りを適当につけてみると次のようになるであろう。

“—and legs/you/whoa/I’ll tear your face right/look him over quick/  
boys/ worth fifteen dollars of/let me get a holt of/who’ll make me a  
bid/whoa/you blare-eyed jack rabbit,/whoa!”

ところで、節の後半に書かれた説明の箇所では、豊富な用語を自由に駆使して多彩な文体に一変している。この点について、速川浩氏は次のように述べておられる。このように全然異質的な二つのものを同所に盛る手法はフォークナーの最も得意とするところで、またこのような文体こそウォーレン・ベックの言うように、作者が言わんとするところを一瀉千里に言い切る自由奔放なフォークナーの文体として今後彼が発展して行くものである。そしてこうした滑稽な場合にわざと華麗な文体を流すのも、題材と用語の不釣合がかえってユーモアを増すためであると。(11)

### 3. 新造語を用いていること。

Faulkner の文章には彼自らが幾つかの語を一つに合成した新しい語が散見するのであるが、本書でも *not-yet-bloomed* (*adj.*) などが用いられている。しかし、ここで特に注目を惹くのは動物と関係のある次のような新造語である。

He thrust the paper carton into his other hip pocket and swung his feet inward and dropped, cat-light, into the lot.<sup>(12)</sup>

この *cat-light* などは軽快な動作を鮮かに示すものとして文章に豊かな彩どりを添え、正に一服の清涼剤の役目を果していると言ってもよいであろう。また、次の文では新造語ではないが *tomcat* という語が動詞として用いられて、意味の適切な表現に効果を挙げている。

And a night like this one when a man ain’t old enough yet to lay

---

(11) フォークナー研究 速川浩著 pp. 72, 73 研究社版

以下すべて *The Portable Faulkner* の頁数を示す。

(12) p. 387 l. 7



still and sleep, and yet he ain't young enough anymore to be tomcatting in and out of other folks' back windows, something like this is good for him.<sup>(13)</sup>

このほか、次の文の hay-burning という形容詞も、馬を罵倒する時に用いる修飾語として適切なものであろう。

Hup, you broom-tailed hay-burning sidewinders.<sup>(14)</sup>

4. 技巧を凝らした表現が多いこと。

The first man Flem would tell his business to would be the man that was left after the last man died. Flem Snopes don't even tell himsell what he is up to. Not if he was laying in bed with himself in an empty house in the dark of the moon.<sup>(15)</sup>

この文は Flem Snopes なる人物の職業が判然としないことについて、第三者の述べた言葉であるが、読者に与える印象の強さという点で、鮮かな表現であると言い得るであろう。

"He ain't no more despair than to buy one of them things," She said. "And us not but five dollars away from the poorhouse, he ain't no more despair."<sup>(16)</sup>

この文はある人の貧しさを示す叙述として出色のものではなかろうか。「救貧院から僅か5ドルしか離れていない。」という表現は読者の心に貧しさの程度を強く訴えずにはおかないのである。

—the heavy gold hair, the mask not tragic and perhaps not even doomed: just damned, the strong faint lift of breasts beneath marblelike fall of the garment; to those below what Brunhilde, what Rhinemaiden on what spurious river-rock of papier-mache, what Helen returned to

---

(13) p. 412 l. 16

(14) p. 368 l. 17

(15) p. 378 l. 5

(16) p. 391 l. 15

what topless and shoddy Argos, waiting for no one.<sup>(17)</sup>

この文は月光を全身に浴びて窓際に立っている Flem Snopes の妻の姿を形容したものである。読者の心を夢幻の境地に誘うその手法は誠に見事なものである。正しく絵画以上の鮮明さを以て読者の心眼に感銘を与えるとともに、散文詩とも言えるほどの情感を随所に含み一読後に深い余韻を残す描写である。

5. 緻密な観察力が生かされていること。

It was merely a translation from the lapidary-dimensional of day to the treacherous and silver receptivity in which the horses huddled in mazy camouflage, or singly or in pairs rushed, fluid, phantom, and unceasing, to huddle again in mirage-like clumps from which came high, abrupt squeals and the vicious thudding of hooves.<sup>(18)</sup>

この文は夕暮時から夜に推移するときの状況を述べたものであるが、薄明りの残った昼間から夜になりきっていない時刻の大気の様相を入念な筆致で描写している。従って、phantom とか mirage といった言葉が文中で真に生きた存在としてその役割を果たすことができるのである。

They went up the road in a body, treading the moon-blached dust in the tremulous April night murmurous with the moving of sap and the wet bursting of burgeoning leaf and bud and constant with the thin and urgent cries and the brief and fading bursts of galloping hooves.<sup>(19)</sup>

この文では Faulkner の緻密な観察、鋭敏な五感の活動が inspiration と相俟って早春の夜の雰囲気が見事な手法で浮彫りにされている。就中「樹液の動きと芽を出している葉やつぼみが湿り気を含んだ状態でほころびる音で少しざわめいた感じのする震えているような四月の夜」という叙述には、他の追隨を許さない繊細な感覚を読者の心にひしひと伝える要素が含まれている。このよ

---

(17) p. 409 l. 33

(18) p. 373 l. 17

(19) p. 409 l. 20

うな情景の説明が、夜の静寂を克明に形容しているからこそ、悍馬の消去って行く蹄の音や、それを懸命に追う馬の持主のかすかに聞える必死の叫び声という表現が距離感を鮮かに読者に訴えることが可能なわけである。

The moon was now high overhead, a pearled and mazy yawn in the soft sky, the ultimate ends of which rolled onward, whorl on whorl, beyond the pale stars and by pale stars surrounded.<sup>(20)</sup>

この文は夜空の景観をその動きを主として捉えたもので、月と星をめぐって大空の有様が生けるものの如くに描き出されている。

## 6. 表現の簡潔化に意を用いたこと。

### (1) Participial Construction の頻出

一般に Participial Construction は表現の簡潔化に役立つのであるが、Faulkner はかなり多数にこれを用いている。特に Absolute Participial Construction と being の省略の多いのが目立っている。就中、Absolute Participial Construction については、これほど頻繁に用いられている作品は極めて少ないといっても過言ではあるまい。次に具体的な例を少し挙げておく。

#### a. Absolute Participial Construction

The nearest animal rose on its hind legs with lightning rapidity and struck twice with its forefeet at Varner's face, faster than a boxer, the movement of its surge against the wire which held it travelling backward among the rest of the band in a wave of thuds and lunges.<sup>(21)</sup>

The stranger, the severed halves of the vest swinging from either, mounted to the wagon seat, the blacksmith following.<sup>(22)</sup>

#### b. being の省略

The ponies, bunched for the moment, now slid past the wagon,

---

(20) p. 410 l. 30

(21) p. 368 l. 15

(22) p. 370 l. 17

flowing, stringing out again so that they appeared to have doubled in number, rushing on.<sup>(23)</sup>

There were three more wagons in the lane now and there were twenty or more men at the fence when the Texan, followed by his three assistants and the little boy, passed through the gate.<sup>(24)</sup>

なお、ここで一つ注目すべきことは、このように Participial Construction の頻出にも拘わらず、dangling participle が一つも見当たらないということである。Faulkner が文法の原則に忠実であるという事実の片鱗がここに見られるものと言えるのではなかろうか。

## (2) with の省略

with が省略されていることが明瞭な場合、それを省くことによって文を引締める役目をさせているのが随所に見られる。次に若干その例を掲げよう。

They sat on the steps, their backs against the verandah posts, or on the railing itself.<sup>(25)</sup>

After a moment Eck and two others approached the gate, the little boy at his father's heels, though the other did not see him until he turned to shut the gate.<sup>(26)</sup>

## 7. その他

### (1) Objective Complement の位置

Objective Complement が Object に比して非常に短いときには、その前に倒置されることは至極当然のことであるが、Faulkner の場合には、比較的長い修飾語句を伴った Objective Complement が Object の前に出されることが特色である。

When he thrust himself through and turned to herd them back from

---

(23) p. 373 l. 9

(24) p. 383 l. 17

(25) p. 374 l. 18

(26) p. 378 l. 34

the horses they saw, thrust into the hip pockets of his tight jeans pants, the butt of a heavy pearl-handled pistol and a florid carton such as small cakes come in.<sup>(27)</sup>

Tha mockingbird of last night, or another one, was already singing in it, and they now saw, tied to the fence, Ratliff's buckboard and team.<sup>(28)</sup>

上の二例において、thrust および tied という Objective Complement の働きをする Past Participle が Object の前に出されることによって、ピストルの台尻や紙箱がポケットに突込まれていたり、四輪馬車と一組の馬が塙に結びつけられている状態が強く読者に印象づけられるわけである。

## (2) 二重否定の頻出

単純否定の意味を示すのに極めて多く二重否定が用いられている。次に少し例を挙げてみよう。

I wouldn't buy nothing I was afraid to walk up and touch.<sup>(29)</sup>

Or, if he don't suit you, how about that fiddle-head horse without no mane to speak of?<sup>(30)</sup>

I can't even get nowhere in time to buy a cheap horse.<sup>(31)</sup>

このような二重否定に数多く直面しているうちに、ごく自然にそれらが意味の上では単純否定として目に映り、否定の意味であることが強調されて読者の心に伝わってくるわけである。なお、特に注目すべき点は、否定詞が、三つあるいはそれ以上、一つの文の中で用いられていることであろう。その例を若干掲げておくことにする。

And after Lon Quick forgot and left that gate open, never nobody

---

(27) p. 368 l. 21

(28) p. 402 l. 14

(29) p. 384 l. 16

(30) p. 386 l. 22

(31) p. 411 l. 33

had time to do no writing even if we had a thought of it.<sup>(32)</sup>

Him nor nobody else never got no ropes on none of them.<sup>(33)</sup>

### (3) hell の使用

強調するための手段として hell が比較的多く効果的に用いられて、野生的な人達の気質を巧みに表現する役割を演じている。次に *Spotted Horses* の中に現われる hell の用例を全部あげてみよう。

What in the hell is that ?<sup>(34)</sup>

"Hell fire," the first man—his name was Freeman—said. "It's Flem Snopes."<sup>(35)</sup>

All you got to do is handle them a little and work hell out of them for a couple of days.<sup>(36)</sup>

If you're going to whip him, you better whip the rest of us too and then one of us can frail hell out of you.<sup>(37)</sup>

; work them like hell all day and...<sup>(38)</sup>

"Get to hell out of here, Wall!" Eck roared.<sup>(39)</sup>

"Rat, hell," Varner said, breathing harshly.<sup>(40)</sup>

... it whirled just like Eck figured it would and come helling back up that lane like a scared hen-hawk.<sup>(41)</sup>

### (4) Adverb の用法

程度を示す Adverb (Adverbial Phrase) の用法において, much の意味に a heap, rather の意味に kind of を用いるなど, 用語に variety を持たせている。次にその具体例を若干列挙することにしよう。

---

(32) p. 436 l. 15

(33) p. 436 l. 29

(34) p. 367 l. 10

(35) p. 367 l. 15

(36) p. 370 l. 4

(37) p. 382 l. 31

(38) p. 389 l. 4

(39) p. 406 l. 16

(40) p. 425 l. 6

(41) p. 426 l. 3

They've got kind of skittish, they ain't been rode in so long.<sup>(42)</sup>

I'd a heap rather watch how he aims to turn them loose.<sup>(43)</sup>

Maybe he'll buy one next time that will out and out kill him.<sup>(44)</sup>

(5) 語句の省略

a. to の省略

All you got to do is handle them a little and work hell out of them for a couple of days.<sup>(45)</sup>

Go get Will Varner.<sup>(46)</sup>

b. that の省略

... when one of them tries to rush you, bust him over the head so he will understand what you mean.<sup>(47)</sup>

... and after a couple of days every jack rabbit one of them will be so tame you will have to put them out of the house at night like a cat.<sup>(48)</sup>

上の文では so that ~ will の構文において、また下の文では so ~ that の構文において、それぞれ that が省略されている。

c. as の省略

... and a passel of boys, soon as they get big enough to be worth anything, they aint got time to work.<sup>(49)</sup>

Long as I am this far, I reckon I'll go on a day or two and look-see them Northern towns.<sup>(50)</sup>

以上のほかに be 動詞, have 動詞の省略もよく見られところである。

---

(42) p. 368 l. 26

(43) p. 371 l. 20

(44) p. 421 l. 7

(45) p. 370 l. 5

(46) p. 409 l. 3

(47) p. 379 l. 21

(48) p. 389 l. 8

(49) p. 411 l. 14

(50) p. 400 l. 18

(6) say + 不定詞の語法

say + 不定詞を tell one + 不定詞の意味に用いた語法が見られる。

Mamma says to come on to supper.<sup>(51)</sup>

[=Mamma tells us (or you) to come on to supper.]

(7) そ の 他

教養の低い地方人の言葉として用いた slang あるいは dialect の中で目立ったものとしては次のようなものがある。

a. 過去の代りに過去分詞を用いたこと。

They almost done it this morning.<sup>(52)</sup>

So Mrs. Varner taken and laid every night with the moon on her nekid belly.<sup>(53)</sup>

Yes sir, when I looked around and seen that varmint in the door behind me blaring its eyes at me,...<sup>(54)</sup>

b. 自動詞の代りに他動詞を用いたこと。

Got to set around the store and talk.<sup>(55)</sup>

He's laying right there in Mrs. Littlejohn's bedroom...<sup>(56)</sup>

c. 接続詞の代りに前置詞を用いたこと。

I'd a made sho Flem Snopes had brought a tiger back from Texas except I knowed that couldn't no just one tiger completely fill a entire room.<sup>(57)</sup>

Which is more than they done without they staid up all night.<sup>(58)</sup>

That one that looks like he's had his head in a flour barrel.<sup>(59)</sup>

d. 語尾に n, en をつけたこと。

---

(51) p. 373 l. 13

(52) p. 403 l. 8

(53) p. 411 l. 20

(54) p. 414 l. 17

(55) p. 411 l. 15

(56) p. 416 l. 12

(57) p. 414 l. 19

(58) p. 378 l. 29

(59) p. 390 l. 14



Anse McCallum made a good team outen them two of hisn.<sup>(60)</sup>

Fifty cents for the dried mud offen them, he means.<sup>(61)</sup>

I don't have to buy it lessen I ain't over-topped.<sup>(62)</sup>

e. 主格の代りに目的格を用いたこと。

And us not but five dollars away from the poorhouse,...<sup>(63)</sup>

When their mule died three or four years ago, him and her broke their land working time about in the traces with the other mule.<sup>(64)</sup>

f. ain't を is, am, are, have, has の否定形として用いたこと。

He ain't said they ain't neither.<sup>(65)</sup> (= has ; are)

Willow ain't a tree.<sup>(66)</sup> (= is)

Naturally they got spirit ; I ain't selling crowbait.<sup>(67)</sup> (=am)

I ain't come here to live, no matter how good a country you folks claim you got.<sup>(68)</sup> (=have)

---

(60) p. 377 l. 14

(61) p. 386 l. 31

(62) p. 389 l. 33

(63) p. 391 l. 16

(64) p. 418 l. 35

(65) p. 374 l. 2

(66) p. 375 l. 32

(67) p. 384 l. 28

(68) p. 389 l. 22